



# 昭和幼稚園だより



物には<形態>と<機能>という二面性があります。

例えば、自動車では<形態>は自動車の形ですね。<機能>とはエンジンがどうの、何人乗りか、スピードはどうか・・・

カタログで見れば、<形態>は自動車の写真、<機能>は性能明細とでもいうべき specification

一般には<機能>と<形態>が深く結びついています。

乗りごちがよく、快適な自動車は<機能>に見合った<形態>をしていますね。

.....  
子ども達が遊んでいます。

右の子どもは手に何かを持って耳に当てています。

暗くてよく写っていないのですが、奥の子どもも手に物を持って耳に当てています。

何を持って何をしているのでしょうか？  
どうも<電話>を持ってお話をしているのです。

<話に夢中>になっているこの顔！  
スマホや携帯が一般的になった昨今の電話事情でも、この子ども達が手にしている<電話>はちょっと前の世代の固定電話のようですね。

子ども達が手にしている<電話>は<電話のおもちゃ>ではありません。

実は<乗り物のおもちゃ>なのです。



<乗り物のおもちゃ>が電話の形(形態)に似ているから、<電話>になったのでしょう。

電話としての<機能>は<音声がつながる>ということですが、ここの場合、空気中を音声が伝わっているの、<乗り物のおもちゃ>でもこの<機能>を有しているかのようです。



子ども達は<機能>と<形態>を発見し、うまく使って<おもちゃ>として遊んでいます。

二人の子どもが離れていて音声が届かない所だったら、<乗り物のおもちゃ>は<電話>にはなりません。音声を伝えるという<機能>がないからです。

おもちゃはこの例のように<機能>と<形態>を不可分としているのではありません。大人が(おもちゃメーカー)が開発するおもちゃは<機能>と<形態>を結びつけようとするものもあれば、<形態>だけに特化したものなど様々です。

子ども達は、既成のおもちゃでなくても、様々な身の回りの日常の品々から、<機能>や<形態>を抽出しておもちゃに仕立て遊びに興じています。

このような遊びの様子に、人間としての成長に大切なことがいっぱい詰まっています。

AIが進歩しても<乗り物のおもちゃ>が<電話のおもちゃ>に変身することを導き出すことはほとんどないでしょう。AIは大量のデータから諸条件の下、最適値を導出するように仕向けられているのですから。最適値でないことを導き出せるのは人間としての証ではないでしょうか。

こんな思いもかけない経験、体験を大人の私たちは見出し、子ども達に気づかせていきたいものです。

このようなことは学校では教えてくれません。教育について、学校が全てではありません。ほんの一部だけです。

<学校評価>をお知らせします。

学校関係者評価委員は今年度のPTA総務と園役員の評議員です。

3月退職者 大澤友里、花嶋真子

平成31年3月15日 園長 橋田匡邦